

# 見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

March 2025 vol.131



## ◆ 仁和の洪水砂

所在地：長野県千曲市雨宮（屋代遺跡群）ほか

交通：しなの鉄道線「屋代高校前」駅 東約1km

仁和3年7月30日(887年8月22日)、南海トラフ地震とされる仁和地震が発生し、北八ヶ岳の東側斜面、天狗岳付近で大規模な山体崩壊が発生しました。崩壊により発生した岩屑なだれは千曲川に流れ込み、下流の小海あたりまでを埋め、千曲川を閉塞して天然ダム湖を形成しました。のちの研究により古千曲湖Ⅰと命名されたこの天然ダム湖は、湛水高130m程度、湛水量は5.8億 $\text{m}^3$ 程度とされ、日本で最大規模の天然ダム湖であったと考えられています。

古千曲湖Ⅰは千曲川上流からの水を溜め続け、湖の範囲は現在の海尻駅から信濃川上駅あたりにまで及びました。そして、仁和地震による山体崩壊から303日後の仁和4年5月8日(888年6月20日)、梅雨時の大雨でついに満水となって決壊し、千曲川を100km以上の下流まで流下する大洪水となりました。『扶桑略記』によれば、その様子は「信濃国の六郡(佐久・小県・埴科・更科・水内・高井)の城や住居を押し流し、牛馬男女流死するもの多く、死骸は丘をなした」とされ、下流の集落に大きな被害をもたらしました。屋代遺跡群を始めとする千曲川の中・下流域、佐久から長野にかけての平安時代前半の遺跡では、広範囲に田畑を覆い厚く堆積する砂層が発掘されており、これらは「仁和の洪水砂」と呼ばれ、大量の土砂を含む洪水が、平安時代の多くの人家や田畑を埋没させたと考えられています。

古千曲湖Ⅰは決壊後も、湛水高約50m、湛水量約4100万 $\text{m}^3$ の古千曲湖Ⅱとして残りました。南佐久郡誌には「仁

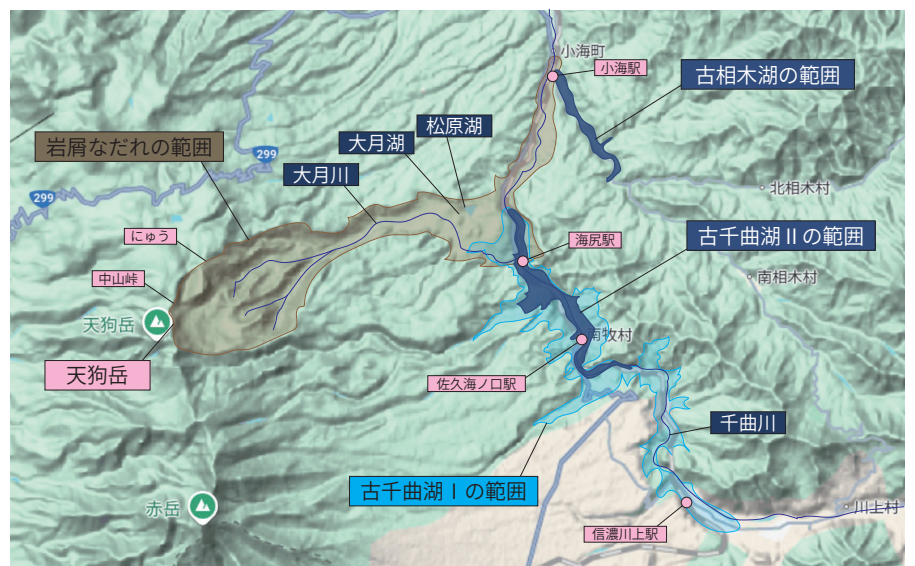
和4年から133年後の寛弘8年8月3日(1011年8月23日)に、海尻と海ノ口の間にあった古千曲湖Ⅱが松原湖下で決壊し、その湖底が干潟となって、谷底の平地部が形成された」とあり、古千曲湖Ⅱは仁和4年の大洪水後、133年間にわたって存在したと考えられ、その流入口付近に位置する海ノ口や、下流側の端部に位置する海尻の地名は、この時代に名付けられたものとされています。

千曲川を閉塞していた山体崩壊の岩屑なだれによる堆積物は、決壊により二次岩屑なだれとなり、下流の小海方面へ流下し河谷を埋め、20～50mの河成段丘を形成しました。この段丘面上や千曲川の河床には、八ヶ岳起源の巨礫が多く残っています。また、小海町馬流付近で千曲川に合流していた相木川を閉塞し、湛水高さ約30m、湛水量約660万 $\text{m}^3$ の古相木湖(南牧村史では小海湖)を形成しました。小海の地名は、古千曲湖Ⅱより小さい古相木湖にちなんで名付けられたものと考えられています。千曲川上流の南佐久郡に残された戦国時代の絵図には相木川に湖が描かれており、古相木湖は600年以上存在したと考えられています。

長野県に残る海の付く地名、これには、仁和地震による北八ヶ岳の崩壊と千曲川の堰き止め、これによって形成された天然ダム湖が関係していました。現地を訪れる際には、こうした地名の由来を思い出していただき、また、身近にも災害の歴史が深く関わっている地名があることを意識してみましょう。



JR 小海駅



◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い(二度と被害を繰り返さないように、など)が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

## ◆ 見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち バックナンバーから

### ● 興禅寺 (vol.52,2018.8)

所在地：犬山市羽黒城屋敷

交通：名鉄小牧線「羽黒」駅西約300m

入鹿池は、寛永10(1633)年に完成した農業用のため池で、満水面積は152ha、灌漑面積は1,369町(1町は約1ha)に及び、日本では香川県の満濃池と1、2を争う規模です。

入鹿池は、築造から230年余り大きな災害に見舞われませんでした。慶応4(1868)年、4月から降り続いた雨は、5月になっても降り止まず、ついに5月14日の寅の刻(午前3時～4時頃)、堤が決壊します。洪水は周辺の低地へ勢いよく広がり、発生が早朝だったこともあって、多くの人々が就寝中を襲われ犠牲になったと言われています。

『羽黒水災記』には、入鹿切れの際の様子について、次のような記録が残されています。「終ニ五月十四日、暁天寅ノ刻六丈余ノ高堤一時ニ崩壊シ湖底ヲ尽シテ进出ス、夫

ユヘ堂社民屋(神社や民家)流損二千余ニ及フ、牛馬ノ死傷モ又数知レス、溺死輩凡一千余人、其外下男下女客入タルモノ又尋ヌルニ違アラス、実前代未聞ノ大変ナリ」

被害は丹羽郡、春日井郡、中島郡、海東郡の120か村に及び、900人余りの方が亡くなり、家屋の流失は800戸余り、浸水は1万2千戸近くを数えました。浸水範囲は、北は五郎丸から南は羽黒新田、西は小口にまで及び、浸水範囲を示すように、各地に慰霊碑が残されています。

犬山市の興禅寺には、「入鹿切れ流石」が残されています。この石は入鹿切れの際にこの地まで流されてきたと伝えられる石で、流水の勢いを物語る遺構として安置され、慰霊の碑になっています。境内にはその他、入鹿切れの犠牲者を供養する「北向き地藏」も安置されています。



◆ 詳細は、見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち vol.52 (<https://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/rekishijishin/geppo.html>) をご覧ください。

## ★ コッパディ小海

小海町に春の訪れを感じるコッパディ小海は、毎年4月に開催されるクラシックカー・ラリーの祭典で、今年で第34回を迎えます(2025年は4月19日(土)、20日(日))。



コッパディ小海 HP より

1970年代までに生産されたクラシックカー及び主催者が認めた車両に参加資格が与えられ、全国からクラシックカーが集結し、春の高原を疾走します。初日のラリーは会場のガトーキングダム小海を中心に八ヶ岳周辺の周遊コース約200kmで行われ、翌日は敷地内の設定コースでヒルクライム競技を行う、2日間に渡るイベントとなっています(今年のコースはコッパディ小海 HP 参照)。普段なかなか目にする事のないクラシックカーが走り抜ける様子は壮観です。

### ～鉄道で巡る～

小海線を走る HIGH RAIL 1375 は、JR 線でも標高が高い線区の特徴から、「天空に一番近い列車」をコンセプトとし、1375 には JR 線標高最高地点「1375m」の意が込められています。



photo AC より

シートは四季の星座があしらわれ、景色が楽しめる窓向きの座席も用意されています。なお、志望校などに「入れる」の意味もかけて、中込駅待合室には2019年から受験シーズンに「ハイレール神社」が設置されています。

### ● ブレイクタイム ●

#### ♪ 小海町高原美術館

小海町高原美術館は、松原湖高原に建つ安藤忠雄氏の設計による美術館で、1997年に開館しました。小海町出身の画家、故栗林今朝男氏や、陶芸家、故島岡達三氏の作品を中心に所蔵され、郷土作家、現代美術、建築等を扱った企画展が開催されています。小海町出身の映画監督、新海誠氏の企画展が開催されたこともあります。松原湖高原には、フィンランドの風景に似た森と湖があることにちなみ、夏至の頃にはフィンランドの文化を楽しむ、こうみ夏至祭が開催されます。



Go NAGANO HP より

◆ この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、[gensaisan2014@gmail.com](mailto:gensaisan2014@gmail.com) まで情報をお寄せください。

◆ この地域の歴史災害記録をオンラインツアー形式、マップ形式で紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『災と Seeing』のホームページ(<https://www.saitoseeing2020.jp/>)をぜひご覧ください。

(発行：減斎の会・名古屋大学減災連携研究センター 2025年3月)